

関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ



2025～2026 年度 関中央ロータリークラブ 会長テーマ

「自利利他 自らを研鑽し

社会に貢献するロータリー」

例会日：毎週木曜日 18 時 30 分

例会場：関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2

会 長：吉田 和也

副会長：高井 良祐

幹 事：森 敬

会 報：古田 育則

前例会の記録 第 2190 回

2025 年 10 月 2 日 (木)

東海北陸道グループ IM 報告

場 所 関観光ホテル

担 当 会長・幹事

事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D

TEL <0575>24-7332 FAX<0575>23-5278

本日のプログラム 第 2191 回例会 2025 年 10 月 9 日 (木)

卓話「私の仕事」 担 当：職業奉仕

*ロータリーソング「我等の生業」斉唱・・・◎

*会長あいさつ 古田 和也 会長



本日の卓話は会員卓話で、西田健一会員に「私の仕事」というテーマでお話をさせていただきます。西田さんのこれまでご経験

された、さまざまな、興味深い人生の哲学のようなお話を聞かせていただき、私どものこれからの人生の参考にさせていただければ幸いと思って楽しみにしておりますので、どうか宜しくお願い申し上げます。

また、先週は IM の報告の例会でしたが、所用で休んでしまい誠に申し訳ございませんでした。改めまして、実行委員長、実行委員、また会員の皆様に、それぞれの持ち場でそれぞれのお役目を全うしていただき、関中央ロータリークラブが一丸となって、無事に IM が開催できたことを御礼申し上げます。最後の副会長の閉会の挨拶は、刀鍛冶の娘さんの奥様との婚姻の時のエピソードのお話をされ、会場がとても暖かい雰囲気のなか閉会となり、とてもよかったと思いました。

話は変わりますが、月曜日の 10 月 6 日は、中秋の名月でした。私も家内と、夕食を取った後、ゆっくりとお酒を飲みながら、きれいな月を眺めさせていただきながら、

忙しい日常から少し離れて物思いにふけさせていただきました。この中秋の名月というのは、旧暦の 8 月 15 日の十五夜に月見をする習わしだそうです。旧暦では秋を 7 月～9 月としており、その真ん中にあたる 8 月 15 日を中秋と呼んでいました。この中秋にあたる 8 月 15 日の夜に昇る月を「中秋の月」と呼び、さらにこのころの月が、春や夏に比べ空気の水分量が少なく乾燥して澄んでいる為、特に美しく見えることから、「中秋の名月」と呼ばれるようになったとされています。実は中秋の名月は、必ずしも満月とは限らないようで、むしろ満月とは同日にならない年の方が多いようです。ちなみに、今年は翌日が満月だったようです。

古来より、月を愛でる風習は日本にもあったようですが、十五夜のお月見が広まったのは平安時代とされています。中国の「お月見」や「望月」といった風習が日本の貴族社会に伝わり、「月見の宴」が催されるようになりました。当時の貴族たちは、月を眺めながらお酒を飲んだり、船の上で詩を詠んだり、楽器の演奏を楽しんでいたそうです。このことが現在のお月見のルーツだと言えるようです。このように最初は貴族社会の間の優雅な催しでしたが、庶民の間にまで十五夜の風習が広まったのは江戸時代に入ってからだったようです。ただ、江戸時代の十五夜のお花見は、平安時代の貴族とは異なり、収穫祭や初穂祭の意味合いが強く、無事に稲を収穫できた喜びを分かち合い、感謝する日として広まったようです。その江戸時代のお月見が、現在のように中秋の名月の日に美しい月を眺めながらお供え物をし、豊作への祈りと感謝の気持ちを、月の神様に捧げる行事となったようです。

おかげさまで、当クラブのひとり親家庭の新米も豊作だったようでいつもの年よりたくさん取れたと聞いております。中秋の名月にひとり親家庭にたくさんお米のプレゼントをできることを、感謝申し上げて、本日の会長挨拶とさせていただきます。

*出席委員会

会員数 27 名、本日の出席 17 名です。

*ニコボックス委員会

16 名のご投函ありがとうございました。

*その他の委員会報告

社会奉仕員 伊佐地 司 委員長

先日よりご案内しております 10 月 25 日支援米納品作業のお願いですがご協力お願い致します。

*幹事報告

今週末、関刃物祭りが開催されます。それにともなって、毎年関商工の皆さんと、募金活動を行っていましたが、今年は中止と理事役員会で決めました。

関ロータリーは活動しておりますので、遊びにいかれた際は、ご協力お願いします。

*本日のプログラム

卓話「私の仕事」 西田 健一 委員長



10 月は職業月間です。

先日、幹事の森さんから今度卓話の番ですが、という電話をもらいましてハタと困ったわけです。

地区から講師が来てくれ

て卓話をしてくれるということは承知をしていましたが腰痛がひどくそこまで気が回りませんでした。職業月間ということで仕方がないので、自分の仕事について簡単にお話をするということになりました。皆さんには、面白くない話ですのでどうぞ寝ていてくださってもかまいません。その方が話しやすいです。

私の職業の原点になったのは、岐阜工業高校の電気科に合格した直後の昭和 37 年 5 月 5 日の子ども、の日でした。

子どもの日で、親父とおふくろ、妹 4 人の 6 人で名古屋の東山動物園に、親父が仕事で使っているオート三輪で遊びに行きました。妹たちは非常に喜んで帰ってきました。

自分は留守番をしていました。朝が早いので寝ていたら、夜 9 時ころ親父が僕の枕を蹴飛ばして起こしました。「火事や」といって妹 4 人と教科書を持っておなじ町内の親父の在所へ行けと言いました。軒先を見ると隣の木工所のひさしからすごい炎が出ていてあの光景は、一生忘れることはできません。

隣の木工所の職人が休日出勤をし、しかも残業してモ

一タを過熱させたのちに鉋屑に火がついたとのことでした。翌朝、現場に行くと自宅は見事にまる焼けでした。失火責任法という法律があり、火元は、類焼させた家の補償はしなくてもよいという法律で、補償してもらえませんでした。泣けてきました。ああこれで僕の大学進学は断念しなければならないのか、大学進学より高校もやめなければならないと思いました。しかし高校進学は続けることができました。借家生活のなか親に感謝です。

その後、高校を卒業して、就職先は、茨城県の日立市にある日立製作所の国分工場に入社しました。敷地面積約 10 万坪、従業員 5000 人の事業所でした。配属先は、大型変圧器設計部でした。東大、京大、東工大などが、沢山いる職場でした。その職場に 3 年半いましてその後、横浜の戸塚区にある神奈川工場に転勤になりました。コンピュータの回路設計でした

その後、小田原工場に転勤になりました。コンピュータの磁気テープ装置の回路設計でした。

そんなころ、このままで本当に良いのか、親をどうするのか、社宅に入れるけれど、狭い、それよりも住む環境に親が、知りあいもないところで耐えられるのかと色々考えてしまいました。結局、日立をやめる決心をしました。

親父に相談したところ、創業 10 年目の野田建設に入社することになりました。

日立を退職して家に帰って 2 日目にたまたま電話を取ったら社長でした。親父あてでしたが、息子が帰っているならすぐ面接をということでその晩、社長宅で面接を受けました。2 ヶ月くらいはゆっくり、休養して自動車の免許を取るつもりでいましたが、予定が狂いました。結局休めたのは 1 日だけとなりました。

どんな仕事をするのか自分は日立で設計の仕事を 6 年半やっていたから設計課だと思いましたが、経理、総務の仕事ということでした。小学校でそろばんの塾にいて 2 級に合格していたのですが珠算だけ間に合って後は猛勉強でした。本屋に行って経理の本を買って貸方、借方の勉強から入りました。又、車の免許がなかったので毎日社長宅へ自転車です社長印と、小型金庫を自転車につけ、朝晩会社から社長宅に運ぶのが日課になりました。免許が取れる日まで続けました。

そのうちに、住宅部を立ち上げたばかりなのに営業が身

体をこわして退職してしまい住宅部が成り立たなくなりました。そこで社長から「西田お前行って立て直してこい」ということで、経理、総務をやりながら住宅部の仕事をやりました。いろいろなことを考えながら夏には展示場で提灯をつけナイトー相談会等を開催したり、夜訪を繰り返し、1 年で、9 棟、素人ながら受注をすることかできました。最後に受注した家に行くと、「お母さんあのおじさん又来たよ」と言われてしまいました。

住宅部はナショナル住宅に加盟したばかりで、中部地区の営業マンの研修がありました。総勢 250 人くらいの研修で、入社 3～5 年の営業マンが対象でした。全体講習が終わりその夜、今度は個人個人が講師の部屋を訪れて個人営業をするという設定で、合格するまで何回でもやるという研修でした。第 1 回目は、訪問してすぐに質問に答えられず、3 分持たなくて「お帰り下さい」でした。

この講義は合格するまで何回でもやるというもので、2 回目に挑戦することになりました。今度は、話を特に繋ぐことを目標として講師の質問に対して、知っていることで話をつなぎ通しまして、30 分以上つなぎ何とか合格をもらいました。終了したのは朝の 4 時ごろでした。

翌日、講評があり自分は努力賞をもらいました。金賞、銀賞の次が努力賞で全員で 5 人でした。250 人の中で 5 人の中に入りました。まだ住宅のほとんど勉強ができていないのに。自分が 1 番びっくりしました。

その後、住宅部は素人の西田でもできるのだから 1 級建築士を持っている設計部長がやることになりました。

今度は、「西田、賃貸住宅をやれ」と言われました。これも 1 から勉強です。いろいろなコンサルを調べ九州

や、北海道まで研修、見学会に参加して勉強しました。

そして会社の所有地で賃貸住宅の第 1 号を建てました。

建てることはよいのですが、どのように管理するのか、管理について、じっくり研究することが必要でした。家賃設定、近隣の家賃相場の研究、その家賃で採算は合うのか、減価償却はと色々考えました。最後にマンションの維持管理です。1 週間に 1 度の掃除をどうするのかということにぶつかりました。これには見当がつかなく最初は、家内と、近所の家内と仲の良い 2 人に頼みました。こうして賃貸住宅部が発足したのです。その後 30 棟以上受注させていただきました。そんな中に、川上設計様

の設計物件もあり、いろいろお世話になり、ありがとうございました。

パソコンを利用して、敷地面積、建物の大きさからこの建築費で採算がとれるのか減価償却はどうか、徹底的にパソコンを利用して資料を作成しお客様にわかるように提供しました。

次に社長から「今度は分譲マンションをやれ」といわれました。

これもやったことがありませんし、見たこともありませんでした。見当もつきませんでした。これも一からの勉強でした。前に賃貸住宅でお世話になった九州の大分市の飯田設計事務所が分譲マンションをやっているということを聞いて早速いってきました。設計を依頼し、関市の小瀬に41戸の分譲マンションを建設しました。中濃地区で初めての分譲マンションでした。本当に売れるのかものすごく心配しました。ここでもパソコンを使用し、マンションの価格、借入金、借入年数を入力すると毎月返済金が出ると出る計算書です。これが好評で20年返済、25年返済、30年返済、何年返済でも返済額がいくらか即わり好評でした。見学に来ていたコンサルタントがそのプログラム売ってくれないか言ったくらいです。マンションが売れるかどうか、すごく心配したものの「1ヵ月で完売」しました。これは驚異的なことでした。

完売したことはよいけれど、賃貸とちがい管理組合の立ち上げ、管理組合の役員、管理費の収納、修繕積立金の保管等々考えなければなりませんでした。また毎年管理組合の総会、役員会についても考えなければなりませんでした。これもクリアして関市に5棟、各務原で1棟、計6棟、約220室を販売いたしました。

そんなころ小学校2年生の長男の授業参観がありました。家内のお袋さんが、がんを患っておられ家内は毎日病院に付き添っていましたので行けないというので、家内の代わりに学校に行き授業参観に行きました。そうしたら、男は、自分ひとりだけでした。あと全員が女性でした。そんなことから西田は教育熱心だということでPTA役員に推薦されてしまいました。

結局、安桜小学校で会長を3年、緑中の会長を3年務めました。その間、関市PTA連合会の会長、美濃地区PTA連合会会長をつとめました。また、岐阜県のPTA連合会の副会長を3年務めました。そして、全国PTA連

合会の研究会が岐阜県で開催され、美濃地区での分科会が開催されそれを主宰させていただきました。その後PTAを卒業したら、日本PTA連合会から会長表彰、文部省から文部大臣表彰を受けました。これは、マンションを売りながらの受賞でした。

学校のPTAの役員会を開くと、時には夜の11時過ぎになるまで熱心にやっておりました。11過ぎに女性の役員の旦那さんからよく電話が学校にかかったこともあったくらいです。このことはみんな一生懸命に課題に向き合っていて討論していたことの証であろうかと思います。

PTA活動が続けながらマンションを売っておりまして、関市に7棟目のマンションを作ろうと栄町の某刃物会社の社長宅の跡地が手に入りまして7棟目に入るべく設計をし、関市の確認申請も許可になりましたが、地元説明会で地元の住民の一部に猛烈に反対されました。言っていることが理不尽で腹に入らなかったものばかりでした。そんなころ、野田建設の会長が商工会議所の会頭に就任することが決まっていた地元と、「あまり揉めることははやめておけ」と言われ計画を中止することにしました。

中止はしましたが、敷地の購入費には大きな金額がかかっていて放っておくわけにはいけません。いろいろ考えていましたが、今度は会長から「老人ホームをやれ」といわれました。これもまた一から研究です。またコンサル探しです。千葉県の幕張の設計事務所がそういうことをやっているということで早速見学して教えることにしました。今度は、3階建てで文句なく地元も了承しました。鉄筋コンクリート3階建てで50室のものでした。関市周辺にはこんな規模のものありませんでした。本当に要介護者が入るのか心配しました。最初は介護事業者テナントとして入ってもらい、給食の業者も同じくテナントとして入ってもらいました。しかし3年を待たずに両社とも赤字で撤退していききました。困ったことになったと思いましたが、介護も、給食もやったことはありませんでしたが、やってみようと、介護も給食も所属職員、全員引き受け営業することにしました。現在まで1度も赤字は出しておりません。

次に今度は農業事業部の立上げでした。関市の工業団地の600坪の自社の未利用地で始め、その後、富加に600坪の遊休地を借用し、これを利用して始めました。

これが大失敗でした。トマトの苗を植えて収穫するのですが、事業の割に人件費が高く採算に乗りませんでした。8年やって累積赤字が1億8000万円出しました。これではやっていけないと20人全員辞めてもらいました。トマトの責任者は農協のOBで規模ばかり追いかけて採算を度外視し、農協のOBをどんどん採用していった社員も正社員を含めて20人以上いました。パート、正社員も辞めてもらいました。ただ若い社員は別の部署に転属させました。現在は社員1人とパート1人で2か所ある圃場のうち富加の圃場で栽培しています。トマト事業は、採算ベースにまだ、乗っていません。1か所の操業で2か所分の減価償却を振り替えていたりしていますので赤字になっています。以上、だらだらと話をしてきましたが常に新しいことに挑戦させてくれた、故野田豪一会長に感謝し、「やるか、やらないか迷ったらまず進もう」の精神でやってきました。社員や、いろんな関係者の皆さんのお陰様で、82歳まで元気でやってこられたことにと感謝をしながら野田建設に60年間、勤務をしたそのほんの一端をお話させていただきました。ご清聴ありがとうございました。

<次例会の案内>

第2192回 10月23日(木)

卓話「無理せず、ゆっくりと夢にむかって」

卓話者:呉 真儀 様

担 当 :国際青少年交換

前田 仁夫 委員長

10月30日(木) 休 会